

手をつなぐ

題字 藤本利夫書

〈1988年7月9日創刊〉
 発行2017年9月1日 〈毎月1日発行〉
滋賀県民主教育研究所
 〒520-0052大津市朝日が丘1丁目
 11-3 教育文化会館2F
 TEL & FAX 077-525-5364
 教育110番 077-523-3715
 e-メールshiga.minken@gmail.com
 HP: http://shiga-minken.jimdo.com/
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)
 ①ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座511256
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

平和を願う子どもたちの作品展』を終えて ～藤岡先生の遺志を受け継ぐ～

多胡 喜伸 (玉川高等学校)

『平和を願う子どもたちの作品展』は、2006年に滋賀九条の会事務局共同代表故田中昌人氏と、同じく共同代表三井寺長吏故福家俊明氏の間で話し合わせ、九条の会と三井寺の共催で行うことが決まった。時期を三井寺「原爆犠牲者慰霊・世界平和記念法要」の日(8月6日)の周辺、会場は三井寺金堂で行うという申し合わせで、この両者を中心に実行委員会が結成された。同年8月6日に第1回作品展を開催し、今日に至っている。毎年7月末に三井寺境内にて親子写生会を開催し、8月6日の「原爆犠牲者慰霊・世界平和記念法要」の展覧会初日に、参加者全員で平和へのメッセージの短冊を付けた風船を飛ばすセレモニーなども行っていた。今年も8月6日(日)から14日(月)まで第12回作品展を開催したところである。

実行委員会には九条の会から沖村舞葉氏、鈴木晴風氏、三井寺から滋野敬宣氏、全教からはOBの山内彰氏、町田勉氏などが参加されているが、何と

言ってもその中心的存在として奮闘されてきたのが、藤岡茂樹先生(元中美連会長・元滋賀県造形集団代表・元全教役員歴任)である。藤岡先生の奮闘なくしてはここまで続けられなかったことは間違いのない。5年前に胃がんを患われ、手術で摘出し、いったんは回復されたものの2年ほど前に膝臓に転移が見つかり、闘病の日々に突入された。しかし胃がんが発見されてからも調子のよい合間を縫ってインドやネパールなどの海外旅行や船旅による世界旅行、その行く先々での膨大なスケッチと素描、その作品による個展などなど。また毎年の三井寺境内での作品制作など、実に作家として数多くの作品を残され、また教育者として多くの人材を育てられた先生である。

「平和であるからこそ、自由な表現ができる。歌も唄えれば、絵も描ける。平和って、当たり前過ぎて空気のような存在だけど、なくなったら大変だよ。」そう子どもたちに語りかけておられた

《 今月の紙面 》

- ・『平和を願う子どもたちの作品展』を終えて/多胡喜伸……………P1
- ・新学習指導要領の環境教育内容/市川智史……………P2
- ・学校の限界と専門機関との連携/鎌田ユリ……………P3
- ・就学前の課題 /高田智行…P4・5
- ・ポーランドの障害児教育事情/黒田学……………P6・7
- ・【今学校で】ゼロトレランスを越えて/飯田尚樹……………P8

《 2017年9月号 No. 351 》

先生の姿が目には浮かぶ。今ほどこの言葉の持つ意義を実感する時はない。
 2017年2月11日、雪の積もる能登川コミュニケーションホールに車椅子に乗った藤岡先生が奥さんに介護されながら降りて来られた。『教育のつどい(県教研)』の場で巡回展として開催される『平和を願う子どもたちの作品展』の様子を見に来られたのである。病魔に侵され凄絶な姿の藤岡先生は展示作業の実行委員会のメンバーにおもむろに右手を挙げられた。
 藤岡先生はこの2週間後、永眠された。実行委員一同が見た最後の姿がこの日であった。この『平和を願う子どもたちの作品展』は藤岡先生のライフワークであったと思われる。心より先生のご冥福を祈る。

(た) よしのぶ